

# 産業能率大学

岩崎暁ゼミ

山口チーム

「一人暮らし学生の食を応援する事業『セタガヤ母さん』プロジェクト」



参加メンバー（敬称略）	
チームリーダー：山口 美寛（2年）	
清水 真帆（2年）	永石 優衣（2年）
若林 賢（2年）	大内 絢加（2年）
指導教員：岩崎 暁（経営学部 教授）	

提案タイトル：

## 一人暮らし学生の食を応援する事業 『セタガヤ母さん』プロジェクト

産業能率大学 経営学部 岩崎暁ゼミ

### 1. 現状分析

世田谷区内に所在する大学に通学している学生のうち、約2万3千人が区内で一人暮らしをしていると推定される。各種調査結果からも浮き彫りになっているように、一人暮らしの学生本人が満足な食生活をしているとは感じていないとともに、一人暮らしの学生に対する保護者の心配ごとにも食事に関する点が強いことが示されている。

### 2. 課題の抽出

このような現状を踏まえて、世田谷区における課題として次のような二つの課題仮説を設定した。

- ①一人暮らしの学生の食生活に対する取り組みに関して、行政と街（商店街）そして大学などが連携して主体的にその向上に努力している現実と姿勢を、地方で心配している保護者に示す必要があるのではないか。
- ②学生時代に良い印象を持って快適な一人暮らしを経験した人は、首都圏で就職する際に、引き続き世田谷区に定住し、生産人口の増加と安定にも寄与するのではないだろうか。

### 3. 事業プラン創出に向けた調査

仮説を前提にした目指すべき街の姿と事業プランを創出するために、世田谷区健康推進課へのヒアリング調査と、世田谷区内の飲食店へのヒアリング調査、ならびに実際に世田谷区内で一人暮らしをしている学生へのアンケート調査を実施した。

### 4. 目指す街の姿

「地方の親が安心して自分の子供を託せる街」であり、「首都圏における若者の第二の故郷」を目指す。

### 5. 事業の目的と事業スローガン

- ①一人暮らしの大学生の食生活改善に寄与できる事業であること。
- ②送り出した保護者からも好意を持って受け入れられる事業であり、安心感の向上に繋がること。
- ③区内の各機能が連携して取り組んでいる姿勢を鮮明に発信できること。 この3点である。

また、この事業目的に沿って設定した事業スローガンは次の通りである。

・「一人暮らし学生の食を応援する事業： 『セタガヤ母さん』プロジェクト 」



### 6. 具体的な事業提案内容

事業の目的に沿って設定した具体的な事業提案内容は次の3つである。

- ①一人でも安心して入店し食事ができる「セタガヤ母さん食堂ネットワーク」の構築。
- ②一人暮らしの応援サイト「セタガヤ母さんウェブ」とLINEアカウントの設置。
- ③一人暮らし学生を応援する世田谷区定食イベント「セタガヤ母さん 定食祭り」の開催。

### 7. 実施した場合の効果

①学生本人の健康増進効果 ②世田谷区への愛着の醸成効果 ③世田谷区への信頼感の向上効果の3つの効果が期待される。

以上

一人暮らし学生の食を応援する事業：

## 『セタガヤ母さん』プロジェクト

産業能率大学 経営学部 岩崎暁ゼミ

### ＜本提案書の内容構成＞

1. 現状分析
2. 課題の抽出
3. 事業プラン創出に向けた調査
4. 目指す街の姿
5. 事業の目的と事業スローガン
6. 具体的な事業提案内容
7. 実施した場合の効果

## 1. 現状分析

### 1-1 一人暮らし学生の食事情

世田谷区の特徴としてあげられることは、区内に所在する大学や学術研究機関が多いことであり、都内有数のアカデミック・ゾーンと表現しても異論のないところであろう。世田谷区産業振興計画（平成 26 年度～29 年度）の資料によると、区内には四年制大学、短期大学合わせて 17 の大学が所在している。ここから、我々の推定でも約 8 万人の学生が世田谷区内の大学に通学していると考えられる。当然、大学生以外にも各種専門学校に通う学生も多数存在する。

ベネッセ教育総合研究所が全国の大学生 4,070 名を対象に 2008 年に実施したインターネット調査「第 1 回 大学生の学習・生活実態調査報告書」によると、大学生の居住形態に関して、一人暮らしの比率は全体の 37.1%となっている。この数値から推定すると、世田谷区内に所在する大学に通学している学生だけでも約 2 万 9 千人程度が一人暮らしをしていると推定される。一方、同調査によると、一人暮らしの学生の大学への通学時間は、63.3%が 15 分以内、21.6%が 30 分以内であり、8 割以上が大学から 30 分以内の場所に住んでいる実態が浮き彫りになっている。このことから、区内の大学に通う一人暮らし学生の 8 割程度にあたる約 2 万 3 千人は、世田谷区内に居住していると推定される。

また、同調査によると、男女別には男子の一人暮らし比率が 39.4%に対して、女子は 33.1%という結果になっている。女子の比率が低い理由として、男子に比べ女子は一人暮らしよりも自宅から通えることが大学選択基準の 1 つとなっていると考えられるとしている。当然ながら、女子学生の一人暮らしに対する本人及び保護者の不安感が背景にあることは想像に難くない。株式会社共立メンテナンスが 2014 年 1 月に実施した、4 月から大学進学により一人暮らしを始める子どもを持つ全国の親 400 人を対象にした「子どもの一人暮らしに関するアンケート調査」結果によると、実は約 25%の親が子供の一人暮らしに反対をしている。さらに、一人暮らしをさせる際に心配なこととしては、第 1 位が「きちんとした食事を取っているか」(68.8%)、第 2 位が「健康管理が出来ているか」(63.8%)、第 3 位が「犯罪に巻き込まれないか」(59.5%)となっている。親が子供の食事面、健康面、犯罪面を心配している様子が表れている。

アットホーム株式会社が 1 都 3 県（神奈川県、埼玉県、千葉県）在住で、賃貸アパート・マンションで暮らす 10～20 代の独身男女 600 名を対象に 2012 年 3 月に実施した「今どきの若者“初めての一人暮らし”実態調査」によると、「料理の楽しさに目覚めた」と答え

た人が 43.8%を示している一方で、「手料理よりインスタントの方が安上がりだと気付く」が 46.2%にのぼる。「結果料理をしなくなった」が 42.2%、「冷蔵庫はほとんど空の状態だ」が 35.5%を占めている。少数意見だが、「お腹が空いても作るのが面倒くさくて『食べずに寝る』を選択するようになった」という答えも散見され、食事面で苦労している若者が多い様子が示されている。

株式会社共立メンテナンスが 2014 年 1 月に実施した「一人暮らしの大学生調査」（マンションやアパートで一人暮らしをしている大学生 200 人と、学生会館（学生寮）に居住する学生 420 人を対象）において、「現在バランスの良い食事をとっていると思いますか」という設問に対して、学生会館（学生寮）の学生の 72.6%が「思う」「やや思う」と答えているのに対して、マンションやアパートで一人暮らしをしている大学生は同 31.5%に過ぎない結果が出ている。

以上のことから、一人暮らしの大学生本人が満足な食生活をしているとは感じていないとともに、一人暮らしの大学生に対する保護者の心配ごとにも食事に関する点、女子に関しては犯罪に関する点であることが示された。

## 1-2 半分近くを占める単独世帯

世田谷区の総世帯数は約 44 万 8 千世帯であり、過去 10 年間の世帯数も年々増加している。しかしながら、1 世帯当たりの人員数は昭和 29 年の 4.0 人をピークに年々減少して、平成 25 年には約 1.9 人となっている。この背景には、高齢社会を迎え、高齢者人口に占める一人暮らし高齢者の割合が全国的に年々上昇していることが最も大きな要因として考えられるが、世田谷区の場合、これに加えて、大学が多いことによる一人暮らし大学生の存在や、都市部へのアクセスが良いことから未婚の一人暮らしビジネスマン世帯が、他の市区と比べて、相対的に多く存在することもその要因と考えられる。

国民生活基礎調査(平成 22 年)を元に平成 24 年に厚生労働省がまとめた資料によると、我が国の単独世帯は昭和 50 年に 18.2%だったものが、平成 22 年には 25.5%まで上昇している。東京都総務局が発表した資料によると、国民生活基礎調査(平成 22 年)を元にとすると東京都の単独世帯はなんと 45.9%も占めている。この数値から、世田谷区の単独世帯数は、約 20 万 6 千世帯(=約 44 万 8 千世帯×約 46%)と推定される。

また、先に推定した世田谷区内で一人暮らしをしている学生 2 万 3 千人が全員単独世帯と仮定すると、全単独世帯の約 1 割が学生の単独世帯ということになる。

## 2. 課題の抽出

これまでの現状の概観を踏まえて、世田谷区における課題として次のような二つの課題仮説を設定した。

一つ目は、区内には大学や専門学校が多く、この地で学ぶために全国から多くの学生が移住し、区内で一人暮らしをしている現実がある。にも拘らず、彼らの最も大きなテーマである食生活に対する取り組みに関しては、大学の学生食堂や、学生寮の管理に託される部分は少なからずあるものの、多くは学生個々人の管理に委ねられ、行政としての取り組み、さらには行政と商店街そして大学などが連携して、主体的にその向上に努力している姿勢と現実を、地方で心配している保護者に示す必要があるのではないかという点である。

地方から子供を送り出す保護者の視点からすれば、子供を託す市区町村や街が、食事環境面、犯罪防止面での取り組みを強化し、可能な限り支援をしている実態や姿勢を伝えてもらうことが、どんなに心休まることであろうかは容易に想像できる。地方から見た時に、単に大学や教育機関の多い行政区としてだけでなく、他のエリアと比較して、一人暮らしの大学生を安心して託せるアカデミック・ゾーンとしての存在感を高めることができるだろう。

二つ目は、長期的な視点における仮説である。大学生時代に良い印象を持って快適な一人暮らしを経験した学生は、東京で就職する際に、引き続き世田谷区内に住む可能性が高まるであろうし、その後結婚をして、この地で複数人世帯を構築することで、単独世帯比率の上昇を少しでも抑制することが出来、世田谷区内の生産人口の増加と安定にも寄与できるのではないだろうかということである。

相関関係を示すデータはにわかには提示することはできないが、出身地ではない地区で住居を選択するとなると、学生時代に良い印象をもった地を求めるのは自然な選択であろうと考える。つまり、大学が多いということは、地方から継続的に移り住む若年層を誘致するには有利な環境であるといえる。一人暮らし学生へのサービス事業の提供・展開が、地方からの若年層の流入機会となり、将来的には、世田谷区の生産人口世帯の形成に繋がると想定できるのである。

### 3. 事業プラン創出に向けた調査

仮説を前提にした目指すべき街の姿と事業プランを創出するために、ヒアリング調査とアンケート調査を実施した。ヒアリング調査は、世田谷区健康推進課へのヒアリングと、世田谷区内の飲食店へのヒアリングである。アンケートは、実際に世田谷区内で一人暮らしをしている学生への調査である。

まず、世田谷区健康推進課に7月8日にお伺いし、一人暮らしの大学生に対する食生活のサポート状況をお伺いした。大学生向けということではないが、子供たちがよく噛んで食べることを目的とした「せたがや食育メニュー」を開始し、区内全域に情報発信しているとのことだった。

世田谷区内の尾山台商店街の飲食店2店に8月25日に直接訪問し、店主の方にヒアリングをした。訪問したAレストランは、ランチから夜まで営業し、1000円以内で豊富なおかずメニューの中から自由に選び自分だけの定食をつくるスタイルのレストランである。何らかの形で一人暮らしの人の食生活や健康に関われるのであれば、是非協力したいという言質を得た。盲導犬受け入れステッカーのようなものを掲示することで、協力していることを表明できたら良いというアドバイスも得た。

一方、B喫茶店は昭和レトロなお洒落な外観の老舗喫茶店である。学生の来店はほとんどない。30代から50代の新聞や雑誌を読むための休憩に利用するサラリーマンや、買い物の合間の休憩で利用する主婦の方が多いそうである。一人暮らしの学生支援のための取り組みについては是非協力したいという言質を得た。また、SNSやインターネットを活用した何か取り組みがあれば、この店の認知促進にも繋がると前向きな姿勢を示してくれた。飲食店へのヒアリングにおいては、一人暮らしの学生を何らかの形で応援したいという店主の協力姿勢を把握することができた。

次に世田谷区内で一人暮らしをしている学生30人を対象に、2014年8月25日から9月25日の間に日頃の食生活についてのアンケートをおこなった。その結果、一人暮らしの食生活に「満足していない」と「どちらともいえない」の合計が77%となり、そのうち、「全体的に栄養バランスがとれていないと感じる」が48%、「3食しっかり食べていない」が41%、「コンビニやインスタント食品に頼りすぎている」が39%という結果が示された（重複回答可）。また、外食をする際に「店の雰囲気」により入店をためらった経験がある学生が全体の64%いることがわかった。また、自炊をしない人たちの中で7割の人が、レシピを提供されたら自炊をしてみたいと興味を示している。

#### 4. 目指す街の姿

これまでに述べてきたことを踏まえ、目指すべき街の姿を次のように描いた。

一言で表現すれば、「地方の親が安心して自分の子供を託せる街」であり、ひいては「首都圏における若者の第二の故郷」を目指す。地方出身の学生が安心して一人暮らしを出来る世田谷区を構築することが、全国の保護者からの期待と信頼に応える自治体としての責務であり、日本全国に世田谷区的良好かつ新たなイメージを発信することにも繋がる。

この地で豊かで快適な学生生活を過ごした若者は、その後、それぞれの選択した道に巣立っていく。地方出身者の多くが経済活動の中心地である首都圏に留まり、我が国のため、世界のために活躍をすることになるだろう。それぞれのキャリアをさらに重ね、豊かな人生を過ごすことになるだろう。そのような若者達の第二の故郷として世田谷区が機能し、彼らを応援できる自治体を目指していく。彼らが安心して社会人生活を送り、幸せな家庭を築く場所として、学生生活を過ごした「世田谷」を選択してもらえるような街づくりである。

本稿では、大学生や短大生以外の専門学校生なども対象として考えているため、極力「大学生」という表現は用いず、総称して「学生」という表現を使うこととする。

図表 1 目指す街の姿イメージ



## 5. 事業の目的と事業スローガン

上記のような目指すべき姿を念頭に、具体性のある事業を提案するにあたり、その目的設定に向け、次のような考察をおこなった。

「安心」とは、大変広い概念であり、精神的な安らぎから防犯面の身辺警護までのすべてを含む。これらをすべて包含した事業となると壮大なものであり、警察機能まで含めた自治体としての全体機能を併せ持つ事業ということになってしまう。そこで、我々のチームは、親の第一の心配事である一人暮らし学生の食事環境改善のための事業を一つ一つ実施に移していくことこそがまずは肝要ではないか考えた。

また、特に、保護者が心配する女子学生にも焦点をあてることも大事だと考えた。女子学生に限らず、我が国は女性が一人で外食をしやすい環境にとてもあるとはいえないと考えたからである。

加えて、「食べる」ということは人間の本能的行動の一つであり、この「食」環境の向上に向けた正の刺激を与えられると、良い意味で人の記憶に留まりやすい刷り込み効果を発揮するのではないかと考えた。

食をテーマした事業は、上記のような理由から、その後、その若者に世田谷区に対する好意的なイメージの形成と態度の実践をもたらし、第二の故郷としての住まいの定着化が図られるのではないかと考えた。

さらに、区内の各機能が連携し協力し合って対応することが、自治体総体のイメージ向上に寄与することだと考えた。

上記の考察を踏まえ、我々の事業の目的を次のように設定した。

- ①一人暮らしの大学生の食生活改善に寄与できる事業であること。
- ②送り出した保護者からも好意を持って受け入れられる事業であり、安心感の向上に繋がること。
- ③区内の各機能が連携して取り組んでいる姿勢を鮮明に発信できること。

以上の3点である。

この事業目的に沿って設定した事業スローガンは次の通りである。

- ・「一人暮らし学生の食を応援する事業： 『セタガヤ母さん』プロジェクト 」

『セタガヤ母さん』という表現に、学生を見守る事業というコンセプトをシンボリックに盛り込むと同時に、キャラクター展開を想定してわかりやすいイメージを訴求した。

## 6. 具体的な事業提案内容

前項の事業の目的に沿って設定した具体的な事業提案内容は次の3つである。

### ①一人でも安心して入店し食事ができる「セタガヤ母さん食堂ネットワーク」の構築

#### [事業の概要]

世田谷区内の各商店街もしくは各個店の協力のもと、趣旨に賛同し協力いただける世田谷区内の食事処（レストラン、定食屋、ラーメン屋、喫茶店など）を事前登録し、おひとり様学生が安心して栄養価の高い食事ができる外食空間という環境を整える。

具体的には、おひとり様学生が安心して入店できることを示す専用の「セタガヤ母さん」キャラクターステッカーを事前加盟店舗の店頭に張り、学生に対して協力加盟店であることを知らせ、利用の促進を図る。

各食事処では、栄養バランスを考えた一人暮らし学生向けメニュー（たとえば、セタガヤ母さんランチなど）を少なくとも一つ以上設定して頂くことで、区内外にそのメニューを一堂に告知発信し、認知促進を図ることも考えられる。

また、さまざまな機会を通じてこのキャラクターステッカーを告知することで、セタガヤ母さん認定の食事処の存在をより多くの人に知ってもらう。

さらに、このステッカーが表示されている加盟店舗は、犯罪等に巻き込まれそうになったときの駆け込み場所として、身の安全を確保できる場所「一人暮らし 110 番」としての機能も合わせて持たすことが出来ると尚良いと考える。

図表2 ステッカーイメージ



## ②一人暮らしの応援サイト「セタガヤ母さんウェブ」とLINE アカウントの設置

### [事業の概要]

世田谷区公式ウェブサイト内に、世田谷区内で一人暮らしをしている学生を主な視聴対象とする、一人暮らしの応援サイト「セタガヤ母さんウェブ」を立ち上げる。この情報を大学の学生課経由で一人暮らし学生に提供する。住民手続きに関する行政面からの情報提供や、区内の便利情報、施設情報、首都圏で生活を送るためのマネー情報、交通情報など幅広く提供し、初めての一人暮らしを支援する。

食に関する内容では、栄養士の監修の下で、一定期間内の食事の栄養バランス度をチェックできるバランス自己チェック機能や、安くておいしく栄養価の高い一人暮らし用料理レシピの提供、さらには、一人暮らしの学生が実際に調理した内容を品評し合う「おひとり様料理グランプリ」の開催など、一人暮らしの食生活向上を支援する。

上記①で提案した「セタガヤ母さん食堂ネットワーク」加盟店について、その一覧表や所在場所、学生向け専用メニュー、お得な情報などを紹介する専用ページも設ける。

不審者情報の提供や防犯面から知っておいた方が良いと思われる知恵や情報も提供し、安心な生活が送れるための情報全般を支援する。

また、地方出身の一人暮らしの学生を特派員記者として登録し、地方出身者からみた世田谷の魅力に関する情報発信をこのサイトからおこなうことも考えられる。地方でこのサイトを閲覧している保護者達が世田谷の地を訪れた際の役立つ情報源としても活用できる。

さらに、身分の確認などの方法を検討する余地はあるが、同郷出身者相互のネットワーク構築のために役立たせることも可能である。例えば、大学は異なっても世田谷区内在住の沖縄県出身者同士がこのサイトを通じて知り合うことも可能であり、多くの情報交換がおこなえるようなサイトを目指す。

このサイト内では、民間企業とのタイアップも考えられる。例えば、賃貸不動産業者や引越し専門業者からの情報提供や、電化製品メーカー、日用品メーカーなどからの協賛が得られる可能性もあり、サイト運営原資の捻出にも繋がる可能性がある。また、これらの企業とタイアップして、「セタガヤ母さんプロジェクト推進会議」を開き、民間企業と連携した各種一人暮らし支援プログラムを実践に移せる余地もある。

専用応援サイトの構築とともに、世田谷区の一人暮らし応援する LINE アカウント (LINE 株式会社が運営) も作成する。内容は、アカウントを友達追加すると「セタガヤ

母さん食堂ネットワーク」加盟店の紹介や、加盟店からの一人暮らし学生限定クーポンの発行をおこない、来店促進を図る。食に関する各種情報発信も考えられる。このアカウントの利用者を増やすために、独自のキャラクターを開発し、スタンプを提供する。

図表3 LINE スタンプイメージ



③一人暮らし学生を応援する世田谷区定食イベント「セタガヤ母さん 定食祭り」の開催

[事業の概要]

駒沢公園など世田谷区内の公園施設を利用して世田谷区各地からの参加者を集め、一大定食イベントを開催する。参加者は、お店単位でも、料理自慢の主婦個人単位などでも可。イベントの特徴としては、会場全体を、味噌汁コーナー、漬物コーナー、おかずコーナー、ご飯コーナー、お茶コーナー、コーヒーコーナーに区分し、それぞれのコーナーへの参加者を世田谷区内ら集め、それぞれの得意領域で腕自慢をおこなう。食材は極力世田谷区内で採れた農作物を活用する。飲食者は学生のみならず、広く世田谷区民、区外からの来訪者も対象とする。ご当地キャラクターとしての「セタガヤ母さん」も登場させ、イベントを盛り上げてもらう。

「セタガヤ母さんウェブ」上でおこなわれるおひとり様料理グランプリで優秀作品となった料理の実演や、同ウェブで知り合った同郷の他大学の学生との交流機会など、O2Oの場としても活用が考えられる。

## 7. 実施した場合の効果

本事業提案を実施した場合の効果について3つに整理して述べることとする。

### ①学生本人の健康増進効果

安心して食事が出来る外出空間の提供や、専用ウェブサイトやLINE、さらにはイベントを通じて食に関する情報発信をおこなうことにより、一人暮らし学生本人が毎日の食事に対して関心と意識を高めることで、個々の健康増進に寄与することが出来る。

また、「セタガヤ母さん食堂ネットワーク」は、防犯面での機能を発揮することも考えられ、特に女子学生が犯罪に巻き込まれるリスクを少しでも減らす効果も期待される。

### ②世田谷区への愛着の醸成効果

「セタガヤ母さん」という共通スローガンでこれらの事業を展開することにより、学生本人に世田谷区を「第二の故郷」として認識させ、地域への愛着を醸成することができる。学生時代に「食」を中心に良い思い出をもったエリアにおいては、その後、就職をして社会人となって巣立った後も、その地に定住し、家庭を持つ可能性が高くなる。推定約2万3千人にのぼる地方出身の一人暮らし学生が、将来、世田谷区の人口増大と安定に大きく貢献する可能性を秘めているのである。

さらに、「セタガヤ母さんウェブ」は、通学する大学は異なっても、同郷出身者同士の交流を活性化させる効果も期待させる。同郷の出身者同士の交流の機会が、共通の第二の故郷に創出できる効果も期待できる。

### ③世田谷区への信頼感の向上効果

行政として、商店街や大学、企業などと連携をして、一人暮らしの学生一人一人をサポートする事業をおこなっているという事実は、地方で何かと心配している親や保護者にとっては、大変心強いことである。子供が行政や地域の人たちに見守ってもらっているという安心感と信頼感を育むことに繋がる。その学生の弟や妹も将来託したい、お任せしたいというように、信頼の感情の連鎖が出来あがっていく。地方から見れば「子供を託せる首都の自治体」として、良好なイメージ形成と信頼感の向上に繋がる効果が期待される。

以 上

